資料

資料：「指導死を考える講演会（その 2)」逐語録

Document：A Literal Record of Lecture on SHIDO-SHI（death of students caused by teachers’ inadequate treatments）, No.2

加藤　誠之（高知大学教育学部）[1]
安達　和美（学校事件・事故を語る会九州呼びかけ人，「指導死」親の会共同代表）[2]

KATO Masayuki [1], ADACHI Kazumi [2]

1 Faculty of Education, Kochi University
2 the advocate of Association of School Incidents and Accidents Kyushu and the representative manager of Association of Families of the Deceased by “SHIDO-SHI”

ABSTRACT

11th July 2018, we had a lecture titled “ Lecture on SHIDO-SHI No.2 ” by ADACHI Kazumi in Taiheiyo Gakuen High School (a private high school in Kochi City, Kochi Prefecture, Japan). This document is a literal record of her lecture.

Ⅰ．はじめに

「高知子どもの権利を考える会」（代表者：高知大学教育学部准教授　加藤　誠之）は，2018 年 7 月 11 日（火），安達　和美さん（学校事件・事故を語る会九州呼びかけ人，「指導死」親の会共同代表）をお招きし，私立太平洋学園高等学校（高知市栄田町 1-3-8）で「指導死を考える講演会（その2）」[1]を開催した。本稿は，この講演の逐語録である。なお，聞き取りづらいところや文意の通らないところ等を省略した箇所は……で示した。また，文意を補うために加筆した箇所は［　］で示した。固有名詞を伏せた箇所は＊＊で示した。

Ⅱ．講演者の紹介

安達　和美さんは 2004 年 3 月，長崎市立小島中学校[2]の 2 年生だった次男雄大君を，教員の不適切な指導に起因する自殺（指導死）で失っている。その後，2014 年に「学校事件・事故を語る会九州」を設立し，指導死に関する講演や指導死遺族の支援等を行っている。

Ⅲ．安達　和美さんの講演

こんにちは。安達といいます。こういう一般の人に向けてのお話っていうこと自体ほとんどやったことがなくて，実は緊張しておりますが。さっき先生からも紹介がありましたけど，子どもが自殺をしたという，その自殺に至った不適切な指導とはどういうものかということを，皆さんに聞いていただければと思っています。

なんか，講師ということで昼間も紹介してもらって，非常に恐縮なんですけれども，子どもを亡くした一遺族として，多くの人に何が起きたのかっていうのを，少しでも伝えることができればなと思っています。大した話はできませんが，どうぞよろしくお願いします。すみません。座って，失礼させていただきます。

すみません。私は，いちおう紹介にもあったんです，あったかな，指導死［についての講演］をやりたいということで，一昨年ですね，大貫さん［大貫隆志さん］[3]が指導死ということでお話をしにこちらに来られたとお聞きしてるんですけれども，ともにいちおう共同代表という，まあ名前だけですけれども，一緒に活動しております。……山田さん［山田優美子さん］[4]も，その仲間になります。

もう一つ，学校事件・事故を語る会九州ということで，3 年半ほど前から，もともと全国学校事件・事故を語る会といって，学校の事件・事故でのいろんな亡くした方，当事者の方が集まるピアサポートグループがありまして，そういうものがやっぱり九州はきっと事案が多いんじゃないかということで，少し自分のいろんなことが終わって，やっぱり。

だいたい，神戸を拠点にやってるんですけど，神戸まで行くのは，やっぱり九州から大変なので，せめて福岡あたりでということで，3 年半前からやり始めて。

最初は，神戸で知り合った 3 人の遺族でたまに会えればいいかなっていうぐらいで始めたんですけど，始めた途端，九州各地からいろんな新しい方が相談に来られる，今の状況で。まあ，その 3 年半の間に，30 事案ぐらいですかね，常に 20 人ぐらい，2，3 カ月に 1 回博多のほうで集会を開いてるんですけれども，まあいろんな各県から九州各地から相談というか亡くした思いを語り合うというか，そういうグリーフケアみたいなことも含めてやってるんですけれども，時間が足りないような状況で，その時間内はやってます。

ちなみに，今多いのは，熊本県が相談に来られる方が，一番件数としては 8 件ほど来られてますし，鹿児島が 3 件，最近多いのは佐賀県ですね。九州の体質っていうのが，本当にひどいなっていうのを実感しながら，活動してるところです。

それでは，私の次男になりますが，安達　雄大について起きたこと，皆さんに聞いていただければと思います。2004 年に置きました。当時，小島中学校というところの 2 年生，もう 3 月 10 日なので，もうすぐ卒業式があって 2 年生も終わるというときでした。

それは，そうか。その前にですけど，さっきも言いましたけど，学校事件・事故っていうのが私がいち親として，学校に行く中で学校が危険なところだという発想が，本当にないというのをとても感じます。

これは，2016 年のスポーツ振興センターの統計に基づくものなんですけれども，1 年間に約 108 万件事故が起きていて，そのうち 63 人が亡くなったと。また，それとは別に，毎年子どもの自殺の数というのは，やっと 300 人最近切るようになりましたが，統計上約 300 人近くが毎年自殺で亡くなってるということでした。

指導死と私たち呼んでるものは，現在平成に入って約，これ 73 人と書いてますが，ことし福井の事案とかがありましたので，それを入れると 74 人

ということになっています。毎年学校で，これだけの子どもたちの数，命が奪われているということを，私たち大人はもっと知る必要があるんではないかということを，とても思っています。

これは，指導死の定義ということで，先ほど言いましたが大貫さんという方が，指導死という名前を考えました。その本の中にも，書かれている定義になります。

指導死ってどういうことなんだということで，こう反感ではないですけれども，買うこともあるんですけれども，先ほど［加藤］先生が言ったような不適切指導ということですね。当たり前の指導を行っていたら，子どもが死ぬことはなかったんですけど，当たり前ではないような指導が行われたということで，それを説明するのが非常に難しく分かってもらえないっていう現状がありました。

そういう中で，いじめ自殺というような形で，皆さんにも伝わるように，指導が原因で子どもが命を奪うということを，インパクトがあるような言葉で，皆さんに考えてもらう，興味を関心を持ってもらうということも含めて，指導死という名前を大貫さんが考えまして，遺族の一人としてこれを私たちも使わせていただいてます。一般的に，暴力を伴うっていうものじゃなくて，暴力を伴わずに，言葉で態度で，子どもが追い詰められて死んでいるということが，指導死の大きな問題だと思っています。

まず，雄大がどんな子どもだったのかを，知っていただければと思います。なぜ，そこを強く思うようになったのかというと，私自身そうなんですけれども，自殺ということに対して，非常に間違ったイメージとか偏見がありました。

とても，おとなしくて暗くて繊細的で傷付きやすくてとか，勝手にそういう偏見で子どもを見ていたので，雄大にかかわったいろんな先生方から，報道を聞いたときも，雄大だとは思わなかった。真っ先に，自殺というイメージから一番遠いところにある子どもだった，ということを言われました。それが，やっぱり雄大の周りの先生方も，あのときの担任もそうですけれども，間違った対応を取らせてしまう一つのきっかけになったんじゃないかと思ってます。

雄大は 3 人兄弟の真ん中で，年子なので，一番上の長男とは一つ違いになります。そして，8 歳離れた妹が一番下にいます。正義感が強くて，友達が多くて，餓鬼大将で，やんちゃで，喜怒哀楽が分かりやすいと書いてますが，人からもそんなふうに言われてました。よく，担任の先生からも，昔のガキ大将みたいな生徒ですねって言われたのを覚えています。

とても，こう喜怒哀楽が本当に分かりやすくて，こんなに分かりやすい子が，なぜこんなことになったのかというのが，とても信じられない思いでいました。

ちっちゃいときは，どこででもすぐに寝てしまう元気な子どもでした。魚釣りが大好きでして，海釣りもそうですし，川とかバス釣りとか，いろんな魚釣りをしてました。学校の勉強はなかなかしないんですけど，こういうやっぱ好きなことに関しては，自分でいろんなルアーを作ってみたり，いろんな釣り方を研究してみたりとか。

あと，なんかよく夜釣りとかに友達のお父さんとかに連れていってもらうので，なんかそういうお父さんとかにかわいがってもらうようなところがありましたし，釣り場で知り合った知らないおじさんとかにもかわいがってもらって，次来たときはこのポイントでこんなこと教えるからみたいなことで，こういう子どもはけっこう大人になっても，どこに行ってもきっとたくましく生きていくんだろうなと，私は思っていました。

将来の夢は船長と，亡くなるころは言っていました。船に乗って，世界中いろんなところに行ってみたい，という話をしていました。これは，運動会の応援リーダーをやっているときの写真になります。これは，中学校で野外宿泊に行ったときの，班長をしていて学年代表ということで，みんなの前であいさつをしているときの写真になります。

小学校，中学校とずっとサッカー部で，サッカーをしていました，部活動のサッカーになります。つい先週まで，日本，ワールドカップで日本代表の試合があってましたけれども，吉田麻也選手って 22 番のディフェンスの選手がいるんですけれども，長崎出身ですぐ隣の校区だったんで，小学校のころはよく対戦して，試合をしていました。

雄大がどういう子どもだったのかというのを，裁判をすることになったんですけど，その中で雄大の友達が，陳述書をたくさん書いてくれました。雄大について，どういう子どもだったのかっていうところに関して，ちょっと幾つか紹介させていただきたいと思います。

いつもクラスの中心のような存在で，けんかっ早いところや友達をからかったりするところもあ

ります。だけど，休み時間などには，必ず雄大の周りには人が集まるし，いつも笑顔で変な話とか冗談で盛り上がっていました。

いろんな相談も，嫌って言いながら，最後まで聞いてくれるし，何かお願いしたら，最後にはちゃんとやってくれるし，本当に優しいです。ちょっと何か言うと，顔を赤くして照れるところとか，恥ずかしがって怒るところとか，かわいい一面もありました。

クラスでいえば，リーダー的存在で，とても人気のある男の子でした。元気いっぱいで，面白くて，いつもみんなを笑わせてくれていました。ちょっと格好つけてるところもあったけど，それはそれでいいところです。

男の子にも女の子にも優しく，明るい子，おとなしい子，誰でも関係なく友達と接することができて，誰からも好かれていて，嫌いな人は本当にまったくいないでしょう。ちょっと褒めたら顔が赤くなるような恥ずかしがり屋で，それがすごく面白くて，かわいいと思っていました。

人が怒っていたり悲しそうだったら，声を掛けてくれるという，すごく優しい一面を持っています。人いちばい友達が多くて大事にでき，きっと誰にとっても大切な存在であり，大きな存在なのだと思います。

学校では，みんなから好かれていて，みんなと話すのが大好きでした。人が集まって話しているところには，必ずといっていいほど中にいて，みんなを笑わせていました。少しやんちゃだったぐらいで，基本的に明るく友達思いで，誰にでも優しかったです。

部活では，ポジション的にも指示をしたりまとめることが多かったので，先輩からも後輩からも好かれていたと思います。いつも明るくて冗談とか言って，けんかしてもすぐ謝ってくれたりして，いつも友達思いだった。相談とかもできるし，信頼できる人だった。サッカーでもディフェンスをしていて，自分が抜かれてでも止めてくれるし任せられた。部活でも，自分の思っていることとか，相手に伝えることができる人だった。安達くんにとって，友達は何より大事だったと思うし，大事にしていた。安達くんだけでなく，僕たちにとって，友達は何よりも大切と思っていた。

こんな雄大が，突然亡くなることになります。3月10日でした。まず，3月6日，土曜日なんですが，サッカーの新しいスパイクが欲しいとチラシを見ながら言いまして，売り出しのやつを買うからと言うので，午前中に一緒にスポーツショップに買いに行きました。行ったところ，やっぱり売り出しのやつよりも，少し値の張るいいやつが欲しいと言い出しまして，結局高いスパイクを，もう中総体まで新しいのを買わなくていいからっていうふうにねだられて，少し高いスパイクを買って，その日のお昼は外で一緒に食事をして，午後に部活動に送っていきました。

翌日の7日の日曜日は，サッカーの試合が，公式戦がありました。1回戦で負けはしたんですけれども，私は部活動の保護者会の部長をやっていたこともあって，お昼ご飯はいつも作って持っていくんですけれども，お弁当を。みんなで，親たちも含めて，一緒に昼ご飯を食べて，みんなを送って，楽しく帰ったのを覚えています。

翌8日の月曜日は，PTAがありまして，2年生最後のPTAで，二者面談がありました。私は，担任と二者面談の中で，今雄大について，特に悩みはありませんと言っていたのを覚えています。

9日の火曜日は，翌日10日というのは，実は一つ上の長男の高校入試の1日目ということで。ただ，雄大がテレビを見て，大きな声でいつまでもげらげら笑っているので，ちょっときょうは早く寝るようにっていう，声を掛けたのを覚えています。

翌水曜日，10日ですね。長男は受験ということがあって，朝早く家を出ました。雄大は，いつもなんですけど，朝起きてこれない子で，この日も私から無理やり起こされて，ばたばたと朝ご飯を食べて，ジャージーを寝間着代わりに着てるんですけれども，そのジャージーをその辺に脱ぎ捨てて，ジャージーの，その場で脱いだんで足の形が残ったまましわになってるジャージーを，帰ってきてからも，きょうは自分で片付けさせようと思って，私がたたまずにそのまんま，それを残していたのを覚えてます。この日もいつもと変わりなく，ばたばたと元気に家を出ていきました。

その日の，3時50分ぐらいになるんですね。友人と，ライターで遊んでいるところを，担任に見つかって，4時半ごろ指導を受けて，それから5時半すぎには，雄大は命を落とすことになりました。私は，子ども劇場というのに入っていまして，この日も……それから数日後に，子ども劇場のバザーがあるというので，自宅の近くの人の家に集まって，バザーの準備をしていました。

6時前ぐらいに，そのすごくサイレンっていうか緊急車両のサイレンがたくさん鳴って，通りす

ぎていったんですね。近くで火事でもあったのかなって，その場にいた人たちと話していました。そして，少したってから，私の携帯が鳴りました，6 時すぎでした。電話に出ると，雄大くんが 4 階から落ちたので，すぐに病院に行ってくださいということでした。4 階から落ちたってどういうことですかって聞くと，自分もよく分からないので，とにかくすぐ病院に行ってくれということでした。

まあ，この時間は部活をしてる時間だし，その 4 階の階段でも走っていたのかなと，どういう，何があったのかなと，あまりでも深く考えずに，取りあえずまだ幼稚園の年長の娘と一緒にいたので，その娘を私がいたところの家の人に見てもらって，取るものも取りあえず，タクシーで病院へ向かいました。

病院に向かうと，緊急，救急病院の外で教頭先生が待っておられて，そのまま案内された中で，最初に言われた言葉がいきなり，死亡確認をお願いしますということでした。もしかしたら，ほかにも何か言ったのかもしれませんが，私が覚えているのはその言葉だけでした。

あまりにも突然過ぎて，そんな死亡確認と言われても，分かりましたと言えるわけもなく。まず，とにかく主人に連絡するんで，それまで待ってほしいと，お願いして。でも，雄大はそこに，窓から 4 階から落ちたということで，脳挫傷ということで，脳の陥没骨折ということでした。

その状態で横たわってるその姿の雄大が，私が知ってる雄大と一緒にならない。でも，雄大に触るとまだあったかくて，今もそうなんだろうと思うんですけど，何が起きたのかを受け入れることができずに，泣いたり叫んだりとか，そんな余裕もないというか，あぜんとしたまま時間がすぎていったような気がします。

なんか，そこからは，いちおう警察の方から事情聴取というか，説明ということが，病院の中で行われていくことになりました。ただ，やっぱりどうしても自殺ということが納得できなくて，悩んだんですけれども，行政解剖ということで，解剖をお願いしました。

解剖するとなると，なんか知らなかったんですが，そのときは。一晩，次の日に解剖するので，一晩，明日になりますっていうことで，一緒に付いていこうと思ったら，冷蔵庫で保管するということで，お母さんは来れませんというふうに言われました。一人で雄大を見送って，申し訳ないな，かわいそうだなと思う中で，もう 12 時すぎてたと思うんですけど，解剖の手続きをしないといけないので警察のほうへ行ってくれということで，主人と 2 人，近くの警察署に立ち寄りました。

そのときに，学校から初めて連絡があって，会いたいということだったんですけど，私は今そういう状態でとても会う気持にはなれない。また，長男の受験と言いましたが，翌日長男の受験の 2 日目ということで，実は長男は，雄大がまだこのとき亡くなったことを知らない状態でした。教育委員会が手配をしてくださって，受験を 1 人別室で，1 人だけで受験できるような体制を作ってくれまして，私はできるだけ動揺を隠して，長男を試験に送り出すまでは，少しでも動揺してはいけないと，すごく自分に言い聞かせてたのを覚えてます。

ただ，主人はやっぱり，学校が何を言うのかを聞きたいということで，主人一人，学校の会いたいということに，会いに行きました。警察署の 2 階の部屋で，主人一人と，学校側は教育委員会も含めて，相当な人数がべらっと来てたようです。

そこで，主人は，うちの子は自殺をするような弱い子ではないと言ったというんですけれども，後日会見で，校長が，お父さんはうちの子が弱かったと言ったということを，記者会見で言ったために，それがテレビでも流されて，お父さんがそういううちの子が弱かったと認めたんだというふうに，周りの人から言われました。

このとき，担任は，ただ理由は言わずに土下座をして，謝ったということでした。さっきも言いましたが，2 時間弱の指導，何があったのか，担任からしか聞くことはできませんが，担任から聞いた指導の内容というのは，まずこのこれはトイレの掃除道具入れになるんですけれども，雄大が掃除中にライターで，友達を集めて火をぽっとこう，オイルをためて火をつけて，手品みたいなことをして遊んでたらしいです。

みんなが言うには，いちおう行く途中で，道でライターは拾ったと，いちおういうことらしいんですけれども，その遊んでいる雄大たちを見て，担任がそれは誰のだということで，雄大のですって言うと，ちょっと来いと言って，このトイレの掃除道具入れ，90 センチ四方の本当に狭い空間なんですけれども，そこに入ってドアを閉めて，二人だけになったと。

担任が言うにはです，自分からポケットからたばこを取り出して，持っていますと教えてくれたということでした。たばこを持っているというこ

とはいけないことだから，また放課後指導するので残っておくようにと，言ったということです。このたばこの件に関しても，後で雄大の友達は，雄大が「勝手にポケットに手を突っ込まれて取られた，やばい」っていうことを話していたと言っていました。

指導が，その後ホームルームがあって，放課後指導が行われた部屋というのが，この部屋になります。この写真のときは，もう既にちょっときれいになってます。実際は，ほとんど使われない空き教室だったので，相当薄汚れた感じで，カーテンも全然なくって，窓両側前面に新聞紙がびっしり貼って，その上からアルミホイルを全部敷き詰めて，中がまったく見えない，電気を消すと真っ暗になる状態で，年に 1 度くらい理科の先生が視聴覚室のなんか実験とかするときに使っていたところで，普段は鍵が掛かっていて使われていない，物置のような部屋だったそうです。

この担任は，密かに指導するときは，この部屋の鍵を勝手に使って指導していたということでした。一部の生徒からはお仕置き部屋とも呼ばれていて，ここに連れていかれたら，絶対に殴られるというふうに思われている部屋でした。他の先生たちは，ここを使ってることは知らなかったということです。

そこで行われた指導というのが，いつ，どこで，誰と，というのを紙に箇条書きに書かせて，10 日ぐらい前からどんな感じが知ってみたかった。そして，僕が吸ったことがあるのを知っているのは，ちょっと名前は私のほうで消してるんですけれども，サッカー部の友達と，吸っているのはいない，自分と一緒に吸っていたのはいないということが書いてます。2 の 4 とかサッカー部というのは，担任の字になります。下の地図も，担任が書いたものです。

こういう指導というのも，私はいつ，どこで，誰と，紙に書かせるって，そういうものかなって思ってたんですが，一緒に活動してくれたベテランの先生は，これを見た途端，自分はこんな指導はしないと，これは子どもに寄り添う指導じゃなくって，こんな事務的なことを指導と言ってはいけないと，このおかしさを教えてくれました。また，うちの 1 歳上の長男は，こういって紙に書かせる，親友の名前を書いてるんですけど，これで自分が友達を裏切ったことが証拠として残ってしまうというのは，精神的にとてもきつかったんじゃないか，ということを言っていました。

担任が，指導で行ったのは，本当にひたすら，誰が一緒に吸っていたのか，吸っているのを知っていた人はいないのかと，それにそれ以外のことは何もやってないんじゃないかと，担任の話しか知らないのでそこしか出てないんですけれども，ひたすらそのことでした。その聞き方も，君だけが注意を受けるとしたら不公平なので，他に吸っている人や，君が吸っているのを知ってる人はいないか，と聞いたということでした。

私は，君だけが注意を受けるとしたら不公平っていう言い方は，非常におかしいと思ったんですけど，担任はそのことに対して，自分がおかしいという感覚はまったくありませんでした。友達の名前を言うとき，実は雄大はもう泣きながら，声も出ないような感じだったということでした。その泣きながら声も出ないような雄大に，親はたばこのことを知っているのかと聞くと，知らないと。だったら，これから親に一緒に言いにいこうと言ったそうです。

私からすると，それはもう逃げ場を失う最後のとどめの言葉だったと思うんですけど，担任とか学校側に言わせると，一人では言えないだろうから，先生が一緒に付いていって，親に話してあげようという，善意の行為だったというふうに言ってます。

ただ，私は，雄大が 1 年生のとき，担任から暴力的，胸ぐらをつかまれていじめをしただろうみたいなことをされたことがあって，していないってすごく反発して，トラブルがあって，学校に抗議に行ったことがあって，それ以来，この 1 年間ずっと担任との関係は悪かったですね。そんな，とても嫌ってる先生に，一緒に行ってもらおうと思うはずがないと，この言葉を聞いたときに，絶対に教師おかしいと思いました。

担任は，親に一緒に言いに行くために，身支度を整えるために，雄大を一人残して，さっきの銀紙の部屋に雄大を一人残し，部屋を出ました。その間に，一人になってるとき雄大は，かばんも全部持ってきていたので，その数学のノートの中の一部に，俺にかかわるいろんな人今までありがとう，本当にありがとうって，名前をさっき挙げた友人の名前と両親，他の友達もごめん，走り書きをして，机の引き出しというか中に開いて入れてあったそうです。これが，見つけたのが警察の人でした。

雄大が飛び降りた場所というのが，「水」っていうチラシが貼ってますが，その 4 階の手洗い，階

段の踊り場のところにある手洗い場の小さな窓からでした。

上の窓は，鍵が掛かってるんですけど，下の窓は鍵が掛かってなくて，そこを開けて頭からかぶるようにして飛び降りたということでした。矢印の部分になります。まあ，頭から洗面台の指紋検証とかした結果を警察が教えてくれましたが，頭からということで即死だろうというふうに言われました。

担任は，担任と入れ替わりに，実は学年主任というのが，最後の締めの指導をするとかいうことで，担任が職員室に下りて，その学年主任に代わりに自分が用意をする間，締めの指導をお願いしますということで，代わりに行っています。

学年主任が教室に入ってきたとき，まだ雄大は教室にいて，入ってくると同時にトイレに行きたいのでって声を掛けたそうです。いいよっていうことで，そのまんま雄大は出ていきます。

トイレとは逆の方向に，飛び降りた場所からすると歩いているんですけれども，6 時近いしーんとした学校で，足音とかもとても響いたはずなんですけれども，学年主任は雄大がどちらに行くかすらまったく気に掛けることもなく，その遺書とかも自分の座ってる机に置いてあったんですけど気付くこともなく，何も考えずに待っていたところへ，担任が戻ってきて雄大はって声を掛けると，「トイレに行った」。担任は，「今僕はトイレに行ってきたけど雄大はいなかった，ちょっとおかしいので探してきます」と言って，担任はその辺を探しに行ったそうです。でも，雄大はいないので，おかしいということになって，二人で探し回って，上の階に，3 階で指導があってたんで，上の階を見たときに窓が開いてるのを見つけて，そこから見下ろしたら，下に雄大が落ちていたということでした。

私たちは，その後，もちろん葬儀とかいろんなことがあって，学校がおかしいという思いはずっとあったんですけれども，さっきも言ったような，長男とかも娘とかも，雄大が亡くなったことを知らなかったことを知らなかったりして，家族にどうするのかとか，いろんなことで学校のほうはまだ見えてなかったんですけれども，知り合いから連絡が来ました。

校長先生が記者会見をして，さっきも言いましたけど，お父さんが弱かったとか言ってたよとか，それで初めて学校が記者会見をしたことを知りました。その場では，だから報道とかも見れてません。ただ，その翌日の記者会見で，校長は行き過ぎた指導はなかった，いうことを言っていたということでした。

それから，数日して，緊急保護者会なども開かれていました。保護者会が開かれることも，私たち遺族にはいっさい説明はありませんでした。このときも，保護者会に出たという保護者の人が家のほうに夜訪ねてくれて，それは PTA とかもそうなんですけど，PTA の会長がなんか始まる前に，ここは何があったとかを追求する場ではない，これから残された子どもたちがいかに早く普通の生活に戻れるかを話し合う場なので，追及するような発言はしないでくださいというようなことを，最初に説明したということでした。こんな保護者会はおかしいということを，なんか教えに来てくれました。

その次に開かれた保護者会の席で，今度は学年，スクールカウンセラーというのが今いると思うんですけども，そのスクールカウンセラーが最初に，雄大くんは以前から死にたいと悩んでいた，死ぬときはそういうメッセージを発するので注意をするようにということを説明したそうです。

雄大は，スクールカウンセラーに会ったこともなければ，そんな話をしたこともありません。でも，周りの人からは，思春期だしそういうお悩みもある時期だから仕方がなかったよねっていうふうに，いつの間にか雄大自身の問題だったり私たち家族の問題だというふうに，すり替えられていきました。

ただ，亡くなった直後，雄大の友達というのが，本当にたくさん毎日毎日家のほうに来てくれました。学年を問わず，本当に数十人来てくれることもありました。まず，最初に雄大の親しかった友達が，さっきも言いましたけど，トイレの掃除道具から出て，放課後のあの銀紙の指導までの間のホームルームの時間に，サッカー部のまず友達のところを回って，部停っていうのは部活動停止なんですけど，部停になるからごめんっていうことを謝って回ったということでした。

サッカー部というのは，割と部停がよくあってて，今度部停になるともう大会にも出さないぞみたいなことを，日常から脅しのように使っていました。あとは，やっぱり仲の良かった子たちに，殴られたら全部よける，いざとなったら窓から飛び降りる，遺書も書いとかんばかなとか，もうサッカー部をやめるしかない，っていうふうなことを言っていたということでした。

でも，まさかみんなこう，そんなに本気だと思わないんですけど，でもやっぱり心配なので指導が終わるまで校門のとこで待っていてくれたりとか，メールをたくさん友達がくれていました。

担任が言うには，今回は雄大には優しく語り掛けるように話して，暴力はいっさい振るっていないということでした。私も，まあ分かりませんが，さっきも言ったように，1 年生のとき抗議したこともあって，それはなんか担任は覚えていて，雄大に対して暴力は振るっていないんじゃないかとは思っています。

なんか非常に，親を見て対応するところがある先生で，マスコミ関係者の保護者には，ちょっとしたけがとかトラブルでも逐一連絡をして，とってもいい先生だねって思われているってことでした。さっきのお仕置き部屋とか言われるような連れてかれて殴られる生徒というのは，例えば母子家庭だったり親御さんのかかわりが学校とあまりなかったりするような子どもさんとかを，ちゃんと選んでやっている傾向があるのを感じました。

ここで，さっきの陳述書の一つで，殴られてた子どもの陳述書を読みたいと思います。

先生は，僕が所属していた野球部の監督をしていました。練習をしていて，エラーをしたり失敗すると，「お前消えろ，帰れ」とか言われていました。ひどいときには，拳骨で殴ったり，平手でたたいたりしていました，つねったりもしていました。先生に，多目的室…っていうのが，さっきの銀紙の部屋です［安達さん自身による挿入］…に連れていかれました…。雄大くんが連れていかれた部屋です。

連れていかれるとき，叩かれるんだろうなと思いました。そして，立たされたまま 30 分ぐらい説教を受けたんですが，思っていたとおり，説教を受けるテーマごとの締めに，分かったなということで頭を出せと言って，一発ずつ何発か殴られました。殴るときは，拳骨で上からけっこう強く殴るので痛かったですが，よけたりするともっと怒られると思って，少しでも痛くないように頭の出し方を変えるとかして，我慢しました。

怒られるたびに，呼び出されたときは，リアルに本当に怖くて逆らうとかできなかったので，おとなしく素直にしていました。しかし，それでも毎回叩かれていました。

僕は，いつも怒られていたので部活が楽しくなくなり，先生が部活にもいると思うと憂うつになり，2 年生の秋ごろ野球をやめました。小学校からやっていた野球ですが，部活でもクラスでも怒られるので，いろいろ面倒くさくなったんです。やめるとき，お前が近くにいると殴りそうだと言われました。怖かったし，悲しかったです。

僕は，先生によく殴られて，嫌だったです。結構，理不尽でしたね。僕は，とても心が傷付いていました。それで，いいんですかね，いいんですかね。実際，みんな許さないと思います。僕は，先生は，ずっと先生は，僕らに恨まれながら生きていくことになると思います。

私自身は，実は雄大が亡くなるまで，こんなふうに暴力を担任が振るっていること自体は知りませんでした。1 年生のときの胸ぐらをつかんでお腹をちょっと叩かれる，っていうようなことの指導があったんですけど，それ自分の子どもに関しては抗議しましたが，雄大の他の友達が，そうやって体罰というか暴力を受けているってこと自体，話してはくれなかったので，亡くなってたくさん友達が家に来てくれる中で，みんなが教えてくれたことでした。なんで，生徒の中では，この先生は殴る，殴って怖い先生だという共通認識があって，そのことは非常に問題ではないかということで，当時教育委員会に抗議しました。

担任に話を聞くと，月に 2，3 回ぐらいしかやっていないっていうようなことを言ってました。月に 2，3 回っていうと，年に 20〜30 回ですかって言うと，いやそんなふうに言われると，というような感じで。

そのことについて，きちんと処分をするように，教育委員会に申し入れました。すると，教育委員会は，年度がすぎているし，被害者からの直接の訴えではないのでということで，担任に聞き取りをして自己申告で 5 件だけに関し，しっかり校長から口頭注意をしたので処分はしました，というふうに私には言いました。

それは，何の処分でもないんですけれども，結局体罰問題はそれで，それ以上大きくすることはできませんでした。やっぱり，暴力，うちの息子にはしていたのかどうか分かりませんが，日常的に生徒を暴力，暴言によって，恐怖心で管理，支配していたということは，それが今度の雄大の亡くなったことの背景に大きな問題としてあるんじゃないかというのを，すごく感じました。

指導自体，行われた指導が，誰が一緒に吸っていたのか，本当，そのことのみ。そして，それが

私がおかしいと担任に言ったんですね。その思春期の友達，一番大事なときに，雄大にとって親友の名前，サッカー部の名前，クラスの親友とサッカー部というのを失うと，雄大には学校の中で居場所がなくなる。

割と，リーダータイプというか，みんなの人気者としての自分の地位みたいなのがある中で，その全てを失ってしまうようなことを，自分はやってしまった。それが，どれほど深い傷になるということを考えなかったんですか，ということを聞いたんですけど，担任はチクると取るか，よく言ってくれたと取るかはとらえ方の問題なんで，自分も野球部をやっていて友達のことを言ったことがあるけれども，それはよく言ってくれたというふうに捉えることだったので，それで雄大くんが傷付くと言われても自分には分かりません，というふうに答えました。

私は，この言葉が，非常にショックでした。私は，先生というのは，子どもの身になって考えてくれてると思っていたし，思春期の子どもにとって，友達がどんなに大事なのかっていうことは，親以上に先生は理解しているんじゃないかと思っていたんで。

じゃあ，分からなかったら分かろうというふうに，せめて思ってくれなかったんだろうかと思いました。気付かなくてすみませんということは，いっさいありませんでした。自分は分かりませんでした，知りませんでしたって，何にも悪くないような，その受け答えに非常に愕然としました。

ちなみに，雄大がたばこを吸うようになった原因としては，1 個年上の，もう高校を推薦で決まってた先輩というのが，暇になって部活動に来るようになって，家も近所で幼なじみだったんですけど，帰り道にたばこを勧めて。

最初は断ったんだけど，何回か言われるうちに，好奇心もあって，10 日ぐらい目から吸ってしまったということを，やっぱり同級生が後で話してくれました。そのことを，一緒に吸っていた友達はいないということで，雄大は一切担任には話してはいません。結局，学校とずっと話し合いを 1 年以上やっていたんですけれども，それ以上の事実を知ることはできませんでした。

そんな中で，実は長崎市の教育委員会，学校なんですかね，文科省の統計のデータに，雄大の事件を事故として報告していることが分かりました。学校は，ずっと私に，自殺として対応をして話をしてきてたんです。まさか，事故として処理してるなんて，考えもしませんでした。なぜ，事故として処理したんだって聞きに行ったら，お母さんがうちの子は自殺するような子じゃないと言ったじゃないですかとか，そんなに自殺って言われたいんですかとかいうようなことを，教育委員会から言われました。

これは，そのときの統計で，中学生の自殺はゼロになっています。昔もそうですけど，いじめ自殺がゼロってことで，数が違うということで，問題になったことがありますが，こうやって子どもの自殺というのがずっとゼロで隠されてきたんだということを，目の当たりにしました。私にかぎらず，こうやってきちんと事故で報告されて，自殺できちっと報告されていないっていう事例は，たくさん過去にはあったことが分かりました。

その後，ずっと交渉をしてたんですね。教師の叱責で，実は，裁判の途中で，勝手に自殺に修正されていたんです，私たちに報告はなかったんですけど，文科省から教えてもらいました。その代わり，今も原因は教師の叱責ではなく，原因不明のその他ということになっています。

結局，これ以上の事実をするには，やっぱりほかに当時は調査委員会とかもなくって，お願いしたんですけど，そんな第三者機関とか作れないということで断られ，裁判しかないのかなということで，裁判を決意しました。

まず，でも弁護士会に人権救済の申し立てができないかと思いました。当時，知り合いの弁護士さんに相談したところ，まあ何の人権侵害もないから無理だねって，断られました。ああ，何の人権侵害もないんだと，ちょっとショックでした。

また，裁判をしたいということで，弁護士を探すんですけれども，簡単に見つかるわけはないとは思っていたんですけれども，学校相手，しかもこんな事案で裁判に絶対に勝てるわけはないってことで，誰も引き受けてくれる人はいませんでした。その中の，長崎の弁護士会に子どもの権利委員会っていうのが，まあ各県あるんですけど，そこの弁護士さんで誰か引き受ける人がいないか，ちょっと検討してみますっていうことで，その話し合いの結果としては，御遺族は勝ち負けではなくて，世論に問題提起をしたいということで，裁判をしたいと言ってるがということでしたが，こんな事案で世論の参道なんかは得られないよということで，誰も引き受ける人はいませんでしたと言って，断られました。

結局，なんかなかなか弁護士も見つからない中，

また世間，一般論としては，悪いことしたんだから，指導は当たり前のことで，そんなことで裁判なんてあり得ないだろうというようなことも言われました。

後に，裁判をするにしてもそうなんですけど，実は長崎とかの弁護士自体も，私の代理人なんですけど，あら自分はたばこなんか吸って指導なんかされたことないから，そんな気持ちなんか分かりませんね，みたいな対応で，弁護士自体，子どもが追い詰められていくっていう気持ちが一切理解できないような弁護士たちだったので，とても大変でした。

でも，やっぱり指導によって子どもが自殺するということを，どうしても明らかにしたかったっていうか，してもらいたいっていうのが強い思いとして，やっぱり裁判するしかないということで，裁判を始めることになります。

でも，そのできるきっかけとしては，まず学校事件・事故を語る会との出会いがありました。亡くなって，まず 4 カ月ぐらいで，学校事件・事故を語る会を知りました。教育委員会とかいろんなところにも，指導で子どもが死ぬなんて事案は過去に 1 件もないと，だからそんなことは絶対になんだと，指導で死ぬことは絶対にないんだって言われました。でも，私はやっぱり指導以外考えられない。そんな中で，必死にいろんなほかにないのか探す中で，この語る会を見つけました。

で，実は，これは私が「日本の子どもたち」［http://www.jca.apc.org/praca/takeda/，2018 年 7 月 24 日最終確認］ってホームページがあるんですけれども，そこからいろんな事案がたくさんあることを知りました。そこを見ながら，当時ネットとかもうまく使えなかったんで，長崎市の図書館に行って，過去の新聞記事を必死に探しました。そうすると，その長崎で，そんな指導が自殺で死ぬような事案は 1 件もないと教育委員会は言ってたんですけど，実は長崎ではたくさん指導死が起きていることが分かりました。調べたファイルなんですけど，裁判まで起きてました。

当時，昭和 57 年のころ，裁判をやって，かみそりとかいろんなものが，このお父さんのところには送られてきたそうです。結局，ほとんど審議をされることもなく，裁判は棄却されていました。

当時の長崎市の，長崎大学ですね，の教育学部の心理学の教授のコメントなんか，ひどいものでした。もう，この，突発的な死ではないと言うんですね，そんな叱られたぐらいで。人には言えない心理的な要因が日ごろからあった，たまたま先生から注意されたことが引き金になった。多分，この考え方が，雄大のときもずっと教育委員会に，ずっと今も残っている体質だと思います。

これ，回します。グリーンの付箋が，長崎の事案になります。数年前まで長崎は，一番指導死が，私たちが数える中で，たくさん起きてました。この最近も，2，3 年前から，北海道に抜かれました。抜かれましたって言うの，あれですが。ただ，人口比からすると，やっぱり長崎の発生率っていうのは，非常に高いと思ってます。すみません。はい。回させていただきます。

こうやって，実際は過去何十年も前から，指導が原因で子どもが亡くなっているということが分かりました。そして，学校事件・事故を語る会で出会った遺族の中にも，いじめ事案と同じぐらいの数，教師の指導がきっかけで子どもが自殺をした，という遺族たちと出会うことができました。もう，その中で出会ったのが，大貫さんであり山田さんたちで，その御遺族たちと一緒に指導死親の会というのを作ることになりました。

裁判，そのきっかけになることの一つとして，長崎で，さっきも言ったように，指導が原因で自殺があるってことが，本当に分かってもらえない。自分の弁護士にも分かってもらえない中で，だったらみんなで行こうということになって，多くの遺族が長崎まで来てくれました。

2006 年の 4 月に，長崎集会っていうのを開いて，御遺族が自分の事案を一人一人ずっと発表してくれました。そのときに，不登校の親の会とかいろんな方々に協力していただいて，会場は本当に席も足りないぐらいたくさん来てくださって，いろんな方がこんな現実があるんだということを，とても実感する会となりました。それが，今の活動にもつながっていることになります。

裁判は，2006 年 8 月に提訴しました。まあ，学校相手の裁判っていうのは，本当に厳しいし，難しい戦いなんですけれども，あと暴力があるなしとかではなくって，やっぱり指導が子どもを精神的に追い詰めるってことを問いたかったので，そのことをいろんな人の力を借りて，裁判やっていきました。

その長崎集会をやった仲間たちと一緒に，まず傍聴席，運動にしないといけないと，裁判をやるには勝ち負けじゃなくって，やっぱ運動として広げていこうということで，まず傍聴席を埋めようということで，本当に毎回抽選になるぐらい，た

くさんの方が来てくださいました。

その都度に，集会とか開いて，問題点とかを話し合ったりしていきました。途中，裁判官から，和解の提案がありました。私の方は，賠償金はいらないので，指導が自殺の原因だったことだけ認めてほしいということを言いましたが，結局，教育委員会は，市側はそのことだけは絶対認められないということで，和解は決裂しました。結局，でも 2008 年 6 月，判決は安全配慮義務違反や予見可能性までは認められないとして棄却でした。

ただ，判決文の中には，教師の指導がなければ雄大が自殺することはなかったことは明らかとか，指導と自殺の間には事実的因果関係があると優に認められるというようなことが，しっかり書かれていました。一つ一つの指導が雄大を追い詰めていったとか，棄却ってなる前までの文は，ほとんど私たちの言う要望を認めてくれている内容でした。

それで，なぜ棄却になるのか本当に悔しかったんですが，気付かなかったら知らなかったら，予見可能性は認められないということになるのかというと，気が付かない馬鹿な教師は法的に許されると思うと，それはないだろうと。

まあ，すごく本当は高裁まで行きたかったんですけど，今の時代，高裁に行ったら，事実的な因果関係すら認められなくなるというふうに言われましたし，一緒に闘う弁護士にも不安があって，結局は地裁で諦めました。ただ，未だに，なかなか裁判において，指導死の場合，この事実的な因果関係すら認められないというのが現状です。

雄大を追い詰めたものとして，私はこの八つを挙げました。皆さんに配った資料にも，一つ一つ，もう少し詳しく書いていると思うんですけれども，こういう一つ一つのことが雄大を追い詰めていって，逃げ場を失わせてしまったと思ってます。

ただ，さっき回した資料もそうなんですが，指導死の過去の事案を見ると，本当にこう指導中に生徒を一人にするとか，指導後のフォローをしなかったとか，密告の強要とかもそうなんですけど，過去に子どもが死ぬきっかけとなる，共通することがたくさんあることが分かりました。

きっと，指導死というのは，防ぐことが割と簡単にできる事案じゃないかと思いました。今まで，指導によって亡くなるってこと認めてなかったので，過去からまったく学ばずに，なかったことにされてきた。それが，今も延々と指導死がなくならずに，もっとひどい今も指導が行われていることに，つながっている気がしています。

雄大自体は，たばこを吸ったっていうことは，自分でも悪いことだとすごく思っていて，その後ろめたさの中で，部活動停止というみんなに迷惑を掛けてしまって，どうしようという状態の中で，殴られる，すごい緊張感の中であんな部屋に連れていかれて，友達の大親友の名前も言わされて，受験の最中の家にまで今から行かれる。

指導をするのは当然だと思います，たばこ。本当は，ライターを持ってたって，ライターの指導をすべきだったんですが，担任はもうイコールたばこだと思ったんでしょうね，ポケットに手を突っ込んだと。それにしても，たばこを持っていたということは，当然指導するべきことだし，親にも言うのも当然だし，私も言ってほしいと思います。

ただ，親に言いに行くにしても，過去の……長男の友達とかも，この時期，喫煙っていうのはよくこう耳にすることがあって，学校から電話があってお母さんが学校に来るか，自分が家に行くのでいつがいいですかというふうな調整をして，電話がかかってきたんだよみたいな話はちょっと聞いていたので，私も子どもに対してそういうときが来るかもしれないというような覚悟はありましたし，そういうこともあるだろうと，あまりショックを受けるということも感じずに，仕方ないねって思うような親だったんで。

ただ，このとき，担任は家にまったく連絡もせず，いきなり夕方，家に行くつもりだったんだと思います。私には，いっさい，電話がかかってませんでしたんで。こういう指導，教師自体，無自覚でやっていることが，とても怖いんじゃないかと思いました。教師による，これは精神的な虐待であり，パワハラじゃないかと。子どもの声を聞かずに，逃げ場を奪ってしまった。本当に，こう雄大の葬儀のときに，小学校のときの担任の定年したおばあちゃんの先生が来てくれて，自分たちは子どもの逃げ場のない指導だけはしてはいけないと，先輩の先生からずっと言われてきたと。雄大がこんなことをするなんて，よっぽどの逃げ場のない指導をしたんだと思うと，教えてくれました。

一緒に活動してくれた＊＊先生っていう私の恩師の先生がいるんですけど，その先生からも，教師は言葉で子どもを殺せるんだっていうことを教えてもらいました。自分の言葉で子どもを追い詰めるっていうことの自覚がなければならないはず

なんです，と思うんです。でも，自覚がないまま，この担任は今も，教師を 1 日も休まず続けています。

すれ違う生徒と教師の心ってタイトルにしたんですが，この写真は雄大の机です。2 年生の終わりで 3 年生になるときに，うちの学校だけか知らないんですけど，机に名前を貼って，1 年生から 3 年生まで同じ机をずっと使うんですね，同じ子が。雄大のシールが貼った机を，一緒に 3 年生に持ち上がりたいと，同級生の子たちが言ってくれて。なかなかそれが，学校が言うことを聞いてくれないので，署名活動までしてくれて，一緒に持ち上がらせてくれと，嘆願書を出してくれました。

持ち上がることになったんですけど，学校側はその机をどこに置いていいのか分からずに，最初はなんか隣の空き教室に一つ置いてたらしくって，何で空き教室に置くんだと。なんか，子どもたち，たくさん本当いっぱい来てくれるってさっき言ってたんですけど，その学校側はもう事件を忘れなさいって指導するんですよね。

でも，忘れられるわけはなくって，吐き出したいいろんな思いがあって，きっとそんな思いをうちに言いに来てたんだなと今は思うんですけども，いちいちそういうことも報告に来てくれました。空き教室に置くなんてあり得ない。それを言うと，今度は廊下に置いたそうなんです。

廊下に，ぽつんと机が置いてある。廊下に置くなんてあり得ないと，またうちに来てくれました。そして，次に置いたのが，この教壇の横に，テーブルクロスを敷いて，花を飾ったらしいんです。これは，雄大の机じゃない，花を飾る台だということで，また知らせに来てくれました。あんまり言うので，一応見に行って，一応写真を撮ってきました。

多分，子どもたちの思いと学校の思いが，すごくすれ違っているのを，当時感じました。例えば，結局，話し合いの結果，ある教室にきちんと机として置いてくれることになったんですけど，その机に雄大の親友の一人が，給食を配って置いたそうなんです。担任の若い女の先生が，それを置いちゃ駄目だと，なぜ駄目なんですかって言われて，雄大くんは給食費を払ってないからって答えたそうなんです［聴衆失笑］。それは，僕は仏壇に，家でね，ご飯をあげると，それと同じ思いで上げただけなのに，なんでそれは駄目なんだってことで，ちょっとその子来なさいってことで，1 時間別室でなんか指導があったそうなんです。

それって，他の生徒が，それで指導するなんてまたおかしいと，僕たちも今度から日替わりで雄大の机に置くみたいな話があったそうなんですけど。その若い先生は，気持ちはとっても分かるけど，自分でもどうしていいのか分かんなくって，その 1 時間の指導の間，実はその女の先生は泣きながらごめんねと，自分も気持ちは分かるけど置けないんだよという話をしてくれたそうです。

これ［写真］は精霊流し，長崎は初盆のときに，精霊船というのを作って出します。このサッカー部とか同級生がたくさん船を作るところから協力してくれて，当日はみんなでサッカー部のユニホームを着て，精霊船を出しました。

これ［写真］は卒業証書なんですが，このスタンプのところに小島中学校の卒業集会実行委員会の印と書いてるんですけど，卒業前に自分たちで集会を何か，集会というかなんかやっていいということがあって，何をするかってなったときに，雄大の卒業式をしたいと言ってくれたそうで，学年 3 年生全員参加で卒業式をやってくれました。

体育館に私たち家族を招いてくれて，担任，校長は来てませんが，ほかの先生だとかは来てくれて，雄大の代わりに，雄大の制服自体は救急搬送されたときに切り刻まれてるので，もうなくなってるので，雄大がいつも着てた洋服を制服の中に着て，この手書きの校長名で出したくないっていうのが，子どもたちの表れだったと思うんですけど，校長名では卒業証書き出したくないということで，手書きで卒業証書を書いてくれて，校長の代わり雄大の代わりっていうような形で，教壇に上がった，体育館のステージに上がって，きちんと卒業証書を受け取るというようなこと，もう本当の卒業式みたいなことをやってくれました。

本当に，同級生には感謝っていうか，もう私たちが雄大が亡くなった後に生きて，顔を上げて生きていけるようになった大きなきっかけは，雄大の友達のおかげです。毎日毎日来てくれるっていうことは，感謝もあるけど，実はすごく精神的には私もきつくて，体も。でも，雄大の友達が来ると，雄大のことを笑っていろんな話を聞かせてくれる。私が思っている以上に，雄大は友達に愛されてたんだなっていうことを感じたし，学校での様子とか聞くのは私もとても楽しくて，亡くなった直後から一緒に笑う時間を作ってくれました。この卒業証書は，今でも私の宝物になります。

お墓のノートを取ってあるんですけど，いっぱい来てくれてはいたんですけど，いろいろありま

して，私も結局家も転居することになって，もうその家に来れなくなったんですね。ただ，近くにお墓があったもんですから，命日になると，多分もうね，家もないし誰も来てないんじゃないかと思ったんですけど，お寺の住職さんが，夜遅くとかでも子どもが来たりしてるよってことを教えてくれたんで，ノートを置くことにしました。私がいない間に，誰かお参りに来てくれる人がいるかもしれないと思って。

そうすると，結構いろんな，みんなが書いてったわけではないみたいなんですけど，ずっと書いてくれてます。いまだに，もう 27 歳になって，みんな自分の家族を持ったりする年になってて，結婚しますとか子どもが生まれましたみたいなことを書いてくれる人もいたし，なかなかやっぱ仕事し出すと来れないけど，この日になると雄大のことは忘れないっていうようなことも書いてくれてます。なので，本当に来れなくなっても，きっとみんなの心には何かの形で残ってくれてるのかなと，思えるようになりました。

その中で，実はその当時，4 クラスあったんですね。雄大は 2 年 4 組だったんですけど，担任の先生，さっき野球部の顧問って言いましたけどね，30 前でしたね，まだ当時。身長も 180 センチぐらいあって，すごくがたいのいい先生でした。

他の 1，2，3 クラスの先生っていうのは若い女の先生で，結局この担任が一人，その学年を取り仕切っているような状態でした。学年主任っていうのは，もうなんかお飾りのような，もうすぐ定年間際の先生なんですけど，まったくもうこう権限がない，名前だけの学年主任って形で，なんでそういうことでこの担任は学年全体を支配しているみたい。

体罰までは分からないんですけど，なんか生徒の耳を触ったりとかえこひいきをしたりみたいなすごい不満はあって，生徒は担任じゃない他の先生たちですね，にも不満を漏らしてたそうなんですけど，その女の先生たちは自分の口からあの先生に注意したりとかできませんでしたというふうに言ってました。その若い先生も，ときどきお参りに来てくれて書いてくれてた言葉です。

私たちの指導死の親の思いとしては，学校を敵にするとかその教師を責めて……とかそういうことではなくって，やっぱりせめて子ども何で追い詰めたのか，子どもを死なせてしまったのか，そのことをきちんと自分自身で反省して，二度とそういうことがないように，その先生にも変わってもらいたいというのが，強く思ってる願いです。

こんなふうに，先生が教師として，子どもたちとかかわれることに幸せを感じながら，日々努力していますっていうようなことを書いてくださると，常に雄大くんのことを思いながら，先生これでいいのかなって思うときがあります，というようなメッセージもありました。そんなふうに生かされて，生かしていってくれるっていうことが，私たちの親としての願いでもあります。

私たちは，ただの親だったんですけど，子どもを亡くして，生徒指導って何のためにあるんだろうって，初めて考えるようになりました。子どものためとか言いながら，親もそうなんですけど，子どものためって言うときは，ほとんど親のためだったり教師のためだったり学校のためだったりするんだな，というふうにすることが分かってきました。

規則を破ったら指導しないといけないって言いますが，その指導っていうのは，単に罰を与えることなのかって，すごく疑問に思います。

雄大が亡くなった後，娘が 7 年たって同じ中学に行きましたが，やられてる指導は同じような，密告を強要するということでした。そして，密告を強要したことを，生徒集会であの子は名前を言ってくれた，それはすばらしいことですっていうことを，全校集会で言っていたと，娘が教えてくれました。

いまだにそんなことを，まだやっぱりあの学校はっていうか，長崎全体なのか日本全国なのか知らないんですけど，すごくこう人の友達の名前を言うことをいいことのように奨励しているということを，すごく怖いなと今も思っています。

でも，生徒たちは自分が悪いんだから叱られたり，密告することも相手が悪いことをしたんだから仕方ないじゃないかと，思っているんですね。なんか，それがどんどん広がっているような感じがあるので怖い，親，保護者もそうですね，どうもそういう感じを今持ってます。規則を破ったから，悪いことをしたから，叱られるのは仕方がないって本当にそうなのかっていうことを，どうみんなに分かってもらえたらいいのかっていうのを，すごく感じます。

そんなことをする中で，今ブラック校則とかもあるんですけど，おかしな罰則とか部活動，校則，なんかいろんなおかしいことがあるなっていうの，すごく感じます。

雄大の部活動停止っていうのもそうなんですけ

ど，私は部停って言ってたんですけど，連帯責任で 1 週間ぐらいみんなで部活動休んで奉仕活動を，掃除とかさせられるんですね。それは，もう決まってることなので，それがいいとか悪いとか中止させるとか，そんなこと考えたことも当時はありませんでした。

でも，雄大が亡くなって，初めてそれっておかしいことなの。それで，神戸の全国の語る会に行ったときに，まだ長崎はそんなことをやってるのって言われて，え，それっておかしいことだったのかって，初めて気付きました。

教育委員会とか当時の中学校のほかの先生たちにも，部停をやめてほしいってお願いをしました。当時，長崎で 91 校ぐらい中学校ある中で，90 校部停をやっているということでした。教育委員会が言うには，部停は校長が勝手にやってることなんで，教育委員会の管轄ではないということでした。

小島中学校では，部停をやめてほしいと訴えました。でも，先生たちは，部停は効果があるからやめられないって言うんです。その効果っていうのが何なのかっていうの，すごく私はおかしいと思うんですけど，先生たちはまったくおかしいと思ってない。生徒たちも，同じように，部停があるから悪いことをしない，歯止めになるから必要だと思ってる生徒がたくさんいるってことが，ここを何とかできないかなと思ってます。

部停にかぎらず，おかしな，ここに書いてる部活動の決まりとか校則っていうこと自体，学校の中にいると，それは当たり前のことだとずっと私自身思ってたんですけど，それっておかしなことなんだっていうことを考えることができなくなってるっていうの感じました。

学校が考える子どもの正しい姿とか，行動のしつけ，それって指導でも同じことだし，なんか今ゼロトレランスと書いてますけれども，子どもを，さっきの効果があるってことです。管理するための効果がある，そういうことがなんか広まってる感じがあって，これから指導死っていうのは，ますますなくなるどころか増えるんじゃないかなってことを危惧しています。

その学校の厳しい，これ作る前に娘の今大学 3 年生になるんですけど，九州で友達に集まってちょっともらって，数人に。おかしな校則とかが，なんか自分のときなかったみたいなことを聞いたんですね。

そうすると，やっぱ九州って本当にすごく保守的なところなんですけど，勉強合宿じゃなくて，高校に入ったらすぐに合宿があるっていうから，勉強の合宿じゃなくって，高校に入ったらすぐに合宿があるっていうから，勉強の合宿かと思ったら，勉強じゃなくって，学校の校歌とか団体行動を一緒にするための，学ぶための合宿らしくって，2 泊 3 日，一緒に山登りの鍛錬とかをして，その後の行進，足音ざっざっとね，全部そろえて手を振って，もうそれがきれいにそろうまでその 2 泊 3 日徹底的にやらされて，校歌を鉢巻きしてえいえいおーっと言いながら校歌をみんなで歌う，それが高校に入ったらすぐの合宿でやるそうなんです，県立の高校で。

そんな学校があるのって，びっくりしたら，福岡のほかの同僚たちは，え，うちの高校もあったよ，それってみんなあるんじゃないのって言うことにびっくりしたんですけど，長崎でもそんな話聞いたことがないと思いましたけど。まあ，そうやって最初に洗脳するんだなというの，実感しました。ずっといまだに，あのときあの苦しい思いがあったから，今自分たちはこうやっていられるっていうのを美化して，子どもにも話しているっていうことで，良かった経験としてみんな残ってるんですね。

とか，あと，体育のプールの授業とかも，女の子は生理とかがあってプールができないですよね。そうすると，プールに入らない代わりに，水着を着てグラウンドを走らされた。そういう，そんなね，ほんの数年前の話ですよ。

まあ，そのときばかりはちょっとその保護者から苦情が来て，もうやめたらしいですけど，そういうことをさせられても，子どもたちはみんなそれは仕方がないっていうか，学校からやれって言われたことだからっていうので，素直にやってるんですね。

さっきのゼロトレランスにつながる，そんなことをやられてたんだと思う。最初はちょっと違反をした生徒がいて，ささいな校則違反で最初は担任から怒られるだけだった。次に違反をすると，今度は学年主任から叱られる。次に違反をすると，今度は反省文を書かされる。なんかこう，ずっと段階が決まってて，5 段階ぐらい，最終的に違反がたまると別室登校で，朝，みんなが学校に行った後に，親に送ってもらって，別室の狭い部屋で 1 日中その勉強の反省文を書かされて，みんなが帰る前に親が迎えに来て帰るっていうか，トイレに出る以外その部屋から出ることはなく，その指

導に入ってる先生以外の生徒たちとも一切会うことがないっていうようなことが，1 週間ぐらい続けられる。

ゼロトレランスって，こんなに身近なとこまで来てるんだっていうのに，そのときびっくり私はしたんですけど，そのとき一緒に娘の友達と話してたら，だってあんたが悪いことをいっぱいしたんだから仕方ないじゃないって，みんな言うんですよね，生徒たちが，いや友達が。

その仕方ないじゃないっていう感覚が，なんかどうしてなんだかすごく腹立たしいんですけど，そんなふうに言えないので，どうしたらそこを分かってもらえるのかというのを，すごく今感じています。

そういうのって，力のあるものから弱い人への支配とか，そういうのが今結局はパワハラとかモラハラとか虐待とか，いろんなことが世の中，社会であると思うんですけど，学校の中でそういうのが最初から教育として洗脳的に洗脳されて，実は私たちはもう洗脳されて社会に出ていたんだじゃないかってことを，ちょっと最近勝手に私は感じています。

今こう，子どもの権利条約って突然出てきたんですけど，神戸に行ったときに，川西のオンブズパーソンというのがあることを，初めて知りました。子どもの救済機関が，こんなものが日本にあったんだと。神戸に行って初めて，さっきも言ったけど，何の人権侵害もないと弁護士から言われたんですけど，神戸に行ったときに，子どもの命が奪われることは最大の権利の侵害なんだよと，教えてもらいました。

で，子どもの権利条約というのがあると。やっぱり，学校で先生からもそうだし，保護者の中で，子どもの権利条約なんて話はいっさいしたこともなければ，今できる雰囲気もないし，何この変な人ってしか，今言っても言えないような空気があるのを感じます。

そうではなくって，子ども自身が，もっと子どもの権利条約があるってことを知ってもらう，さっきの自分がおかしいっていう感覚を持たないってことも含めて，きちんと権利条約がもっと子どもの中にしっかり普及するように，社会の中にいっぱい根付くような，そういうことができないかなというのを思っています。

これが，実はつい先月なんですけど，長崎の民間で，子どもの権利オンブズパーソンながさきっていうのを立ち上げましたというか，できました。中心になってくださってるのは，不登校とか引きこもりの当事者なんですけど，支援もしている古豊くんという青年が中心になって一生懸命動いてくれて。

後は，さっきも言ったんですけど，私の裁判の支援をしてくださったいろんな団体の人たちも一緒になって。きっかけとしては，長崎上五島でいじめ自殺が置きまして，そのときの調査委員会の提言に，常設の第三者機関っていうのが必要じゃないかっていうことが書かれていました。

私も，長崎に川西のようなオンブズパーソンができることが，ずっと夢だと思っていました。でも，なかなか行政が作ることは難しくて，子どもの権利なんて，長崎ではとてもじゃないけど受け入れてもらえない。

だったら，待ってる間に子どもが死んでいく現状見ると，自分たちで作ればいいじゃないか。本当に何の，何というかね，準備もなくっていうか，始めたので，まだまだこれからどうなるか分からないですけど，取りあえずは子どもたちが何かあったら相談できる，子どもの声を聞ける場所を作りたいということで，立ち上がりました。この書いてある，水曜と水木土，まあ 3 日しかなかなか開設できてないんですけれども，ここで古豊くんが常時そこにいて，子どもの声を聞く相談員をやってくれています。

というようなことで，長くなりましたけど，私が言いたいのは，やっぱり先生たち大人全てですけど，子どもの声をもっとしっかり聞く大人であってほしい，ということが願いです。長い時間，聞いてくださって，本当にどうもありがとうございました。

注

1 「高知子どもの権利を考える会」では，2016 年 7 月 12 日（火）に大貫隆志さん（「指導死」親の会共同代表）をお招きし，「指導死を考える講演会」を開催している（加藤誠之・大貫隆志，2017，「資料：『指導死を考える講演会』逐語録」（『高知大学教育学部研究報告』第 77 号，pp.9～19）参照）。そのため，安達さんの講演は「指導死を考える講演会（その 2）と題している。なお，大貫隆志さんは，2000 年に公立中学校の 2 年生だった次男を「指導死」で失った遺族である。現在，安達和美さんと共に「指導死」親の会共同代表をつとめる（http://shidoushi.org/about.html，2018 年 10 月 25 日最終確認）と共に，一般社団法人ここから未来の代表理事を勤めている（https://cocomirai.org/request/lecturer_oonuki，2018 年 10 月 25 日最終確認）。

[2] 「小島中学校」という校名は，2005 年 3 月 16 日付け毎日新聞（西部夕刊），2006 年 8 月 23 日付け熊本日日新聞朝刊，2007 年 2 月 28 日付け毎日新聞（地方版/長崎）及び 2010 年 6 月 27 日付けしんぶん赤旗の記事で既に報道されている。

[3] 大貫隆志さんのプロフィールについては注 1 を参照されたい。

[4] 山田優美子さんは，2011 年に愛知県立高等学校の 2 年生だった次男を，部活動の顧問の暴力を苦にした自殺で失った遺族である。学校事件事故遺族連絡会の発起人の一人である（http://cairn2011.blog.fc2.com/blog-category-1.html，2018 年 10 月 25 日最終確認）。